

もど子と人婦

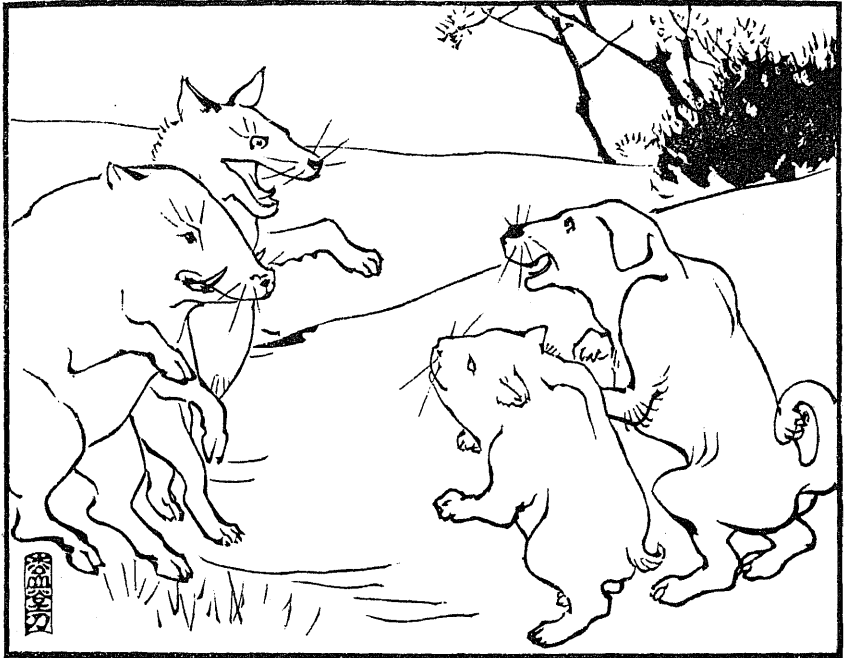
號二第卷五第



けだもの會議

やまとの翁

今晩は、けだもの會議が、奥山
 で開かれるといふことで、市街
 からも、野からも、山からも、
 いろいろのけだものが、連れ立
 って、奥山へと出かけて参りま
 す。



先づ、市街から出懸るものには
 猫だの犬だのを始め、馬牛豕鼠
 などが参りますし、野山からは
 獅子だの虎だの、野猪だの狼だ
 の狐だの狸だの猿だの羊だの、
 まだく澤山ありますが、とて
 も數へ切れない位、後へくと
 やつて参ります。

猫犬「や、狼さんに野猪さん、今晚
 はお揃で、何處へ御出かけで
 す」

「狼 やあ、誰かと思つたら、犬さんに猫さんか、僕等は今から、奥山

のけたもの會議へ出る積りで出かけたのだが、君等も何れ、御
出席なさるのでしよう

「犬 はそうですか、昨晚、象君からは是非出席する様にとの御手紙で
したから、實は、お隣りのお玉さんを誘つて、夫に出る積りで
参つたのです

「豚 夫じゃ、今から一所に行くとしよう

「猫 どうか、御一所に願ひます

「狼 やー、下の方から驅つて来るのは、馬さんじゃないか、感心
早いもんだなあ、平生から駈けつけて居るから、夫に後から、
重たそうに走つて追つ附かうとして居るのは、牛君の様だ、ど

うだ諸君、少し待つてやつて、皆で連れ立つて行くをにしたら

皆賛成く

こんな風に、方々から澤山の獸類がやつて來まして、奥山は、まるで、けだもので一杯になりました。そこで、丁度時刻になりますと、奥の杉の木の間から、ニユーッと身體を出したのは、小山程もある大きな象で、これは、此會議の會長であります。

象「もう會議の時間になりました、大抵皆さんお揃になりましたから、今から會議を始めましょう

會長、鯨君だの海豹君など水の中のけだもの仲間が見えない様だが、御缺席ですか

象「あ さつき鯨君から電報が参りました。一寸読みあげます。

ワレワレハミヅカラソトニデルノガユマルカライカンナガラ
ケツセキスルミヅノナカノケモノードー

この通りですから、皆さん御承知を願ひます。夫では、會議に移り
ますが、本日の會議は、かねて、廻文に記して置きました通り、吾
々けもの仲間の中で、誰が一番上に立つべきであるかといふこと、
即ち位を定めようといふことなのであります。人間仲間のことを
聞いて見ますと、上下の位がちゃんとして居るといふことです
から、矢張り吾々の間にも、階級をつける必要があらうかと考へ
られます。そこで、どういふ標準にして、これを定めるかといふ
ことに付きて、皆さんと御相談を致したのでありますから、ど
うか、御遠慮なく、十分御意見を述べて下さい。

といつて席に就く、中々大切な問題ですから、うっかり口を開くものはなく、暫らくの間は、ひっそりとして居りました。すると

「會長」

といつて立ったものがある。其聲といつたら、丸で、鐘の様に、そこから中に響き渡って、恐ろしい大さなうなり聲であつたので、皆は、吃驚



して、見ると、夫は
 虎であった。黄色の
 地に、黒い筋のいった
 皮を衣て、耳まで劈
 けた口の邊りには針
 の様な口髯を逆か立
 て、大きな眼を鏡の
 様に光らかして、其
 場に立ち上りました。

諸君からは、まだ何も出ません様ですから、我輩の意見を申し
 ます。この問題につきては、別に考へるに及ばんことで、つまり



一番強いけだものが、一番上になるのが當然のことで、之には誰も異議のない事と考へます、人間仲間のことは知らないが、吾々仲間では之より外に仕様はありますまい

「象なる程、虎君の意見に御賛成の方がございますか」

すると、熊だの豹だの狼だの野猪だのといふ強さうな連中は一度に

「賛成々々 至極賛成だ」

といつて立ちました。虎は、「どうだ、己の云ふことに反対する者を出て見ろ」といふ様な顔付をして、會場を、じろくと見渡して居ります。他のけだものらは、虎の威勢に恐れて仕舞ったものか、黙つて居て一向何にもいふものがない。すると、向ふの隅の方で、

猿さると狐きつねとの二匹ふたひきが、ひそくとさゝやいて居ゐましたが、やがて、猿さるが立たつて、

會長くわいちょう 私は猿さるですが、只今ただいま虎先生とらせんせいのお説せつは至極しごく尤もととは存ぞんじま
したしたが、だんぐ考かんがへて見みますと、虎先生とらせんせいのお考かんがへは、餘程よほど古ふるい様よう
に思おもはれます、一番いちばん強つよいものが、一番いちばん上うへに立たつといふのは、あれ
は、昔むかしの野蠻時代やばんじだいのことでありまして、今日こんにちではとてもそんな説せつ
は立たちますまい、人間社會にんげんしゃかいのことを考かんがへてもそうで、野蠻やばんの時ときは、
各自各自強つよい者ものがちであつたといふことです、所ところが、今日こんにちは夫それではい
けない、今日こんにちはつまり智慧ちゐのある賢かしこい者ものが豪あまいので、そういふ者もの
が上うへに立たつ、(ヒヤくといふ者ものがあります)幾いくら強つよくつたつて、智ち
慧ゑのない者ものだつたら 仕方しかたがない、下したにならんければならぬとい

ふのが、今日の有様だと考へます、

といふと、象は心の中でなる程、なる程、尤もの様な、理屈がある様だと思つて

「さあ、皆さん、今猿君の述べられた説に賛成の方がございますか」

すると、狐だの狸だのが得意になつて立ち上つて賛成しました。虎だの狼だのは忌々しいと云ふ風な顔付してこちらを見て居ります。すると、向ふの方から

「會長」

と呼んで立ち上つたものがある、誰かを見ると犬でした

犬「だんぐ皆さんの御説が生まして、どれもこれも、一應の理屈

はある様に考へられますけれども、然し、幾ら力があり知慧があつたからとて、信義を辨へないものはとても上に立つことは出来ません、今猿君は、力のある者が上に立つといふ事は、昔の野蠻時代のことで、今日は知慧のある者が上に立つのだといはれましたが、私は常々人間仲間と交際して居りますが、或學者の言つた事だといつて人間社會に信用せられて居る説に由りますと、知慧のある者が上に立つといふ時代も、餘程前の話のことで、今日の世の中は夫ではいかぬ、今日は、力の強いものでもなければ、知慧のあるものでもない。つまり徳の高いものが上に立つのだといつて居ます、故に吾々けたもの仲間に於ても、矢張り、吾々の様なよく信義を守るものが一番上に立つ

べきであらうかと思ひます

と、中々甘く辯じました。會長の象は、心の中で、「なる程、さすが人間仲間と交際して居る丈けあって、前の猿の議論よりは、一層理屈がある、尤もな議論だと感心した体で」

象「さあ、皆さん、今犬君の述べられた説に賛成の方は立って下さ

う

といふと、第一番に、馬が賛成々々といつて立ち上りました。すると、最初の虎は此時、猛然と立ち上つて、

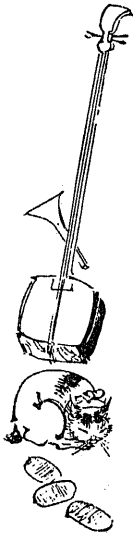
「會長」

と叫びました。すると、皆のけだものは、其聲に吃驚して、そら又、始まつたといつて小さくなつて居ると、

虎こ一體いつたい、前まへから黙だまって聞きいて居ゐると、猿さるだの犬いぬだのが、しきりと、人間にんげん社しゃ會かいのことが、どうのこうのといつて居ゐるが、吾われ々の仲なか間まは夫それではいかぬと思おもふ、知ち慧ゑだの、道ど徳とくだの、そんなことは、吾われ々の仲なか間まには入い用ようがないのである。知ち慧ゑなどゝ猿さる君くんはいふが、けだものゝ知ち慧ゑといふやつは、夫それこそ、猿さる知ち慧ゑだ、何なんになるものか、まして道ど徳とくなどいふことがあるものでない、吾われ々の仲なか間まで一番いちばん肝かん心じんなのは力ちからがあつて、誰たれにも負まけないといふものでなければならぬ、夫それでない、其その仲なか間まは屹きつ度と絶たやされて仕し舞まふのだだすると、鼯むぎ鼠ねずみだの鼠ねずみだのは片かた隅すみの方はうから、小ちひさな聲こゑで「ノーノ」といつて居ゐる）

といつて、奮ふん然ぜんとして、四し方はうを睨にらみ廻まはして席せきに付つく。

すると、多勢おほせの中には、虎君とらくんの説せつは尤もつともだといふものもあり、いや
 猿君さるくんのが理屈りくつがあるといふものもあり、又は犬いぬの説せつが一番いちばん穩當えんとうだと
 いふのもあれば、中には、さっきの鼯鼠ねぶただの鼠ねずみだの蝙蝠ひょうぶの様さまなも
 のは、いや、どっちにも賛成さんせいが出来できぬ、吾々われらは力ちからもなければ、知
 慧ちゑもなく、さればといつて、道徳どうとくといふ事ことも知らぬ だからこん
 な議論ぎろんは面白おもしろくないといつて、議論ぎろんは丸まるでがやくと騒さわぎ出して、
 何が何なんだか分わからなくなり、さすがの象ぞうも、どうしてよいか困まって
 仕舞しまひました、



(つづく)